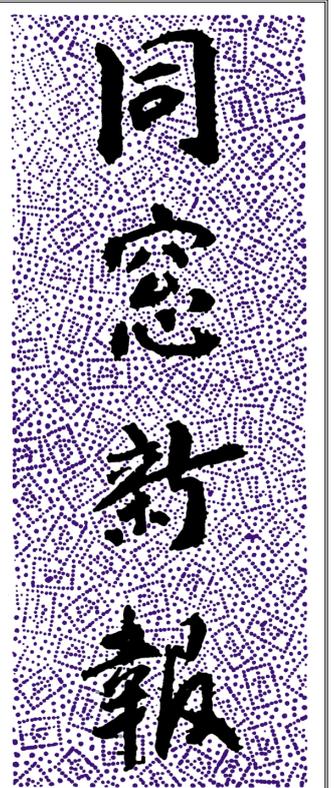


平成25年度は役員の変更が行われ、副会長であった10期 関根正晴氏が新会長に就任されました。

また、副会長には17期中原英俊氏が継続、25期鈴木俊孝氏が新たに就任されました。

心機一転、新たな同窓会を作って下さると思います。



題字・故 上野慧賢先生
同窓新報 第49号
発行所
駒澤大学高等学校 同窓会
正会員数 27,442名
東京都世田谷区上用賀1丁目17番12号
〒158-8577 TEL.3700-6131(代)
FAX.3708-7291
振替口座 0018-6-61881
ホームページ: <http://komakou-dousoukai.net>
E-mail: info@komakou-dousoukai.net

会長就任にあたって

会長 関根 正晴(十期)



駒澤大学高等学校同窓会も今年三月に第六四期の卒業生を迎え、二万七千人を超える同窓会員数となりました。これから先、益々大きな組織になるうとしております。この様な時期に昨年の役員総会の席におきまして同窓会会長職という重責を仰せつかることになりました。
時代の変遷と共に諸先輩の皆様が築かれて来られました同窓会組織の重みを感じつつ、微力ではございますが職務を全う出来ますよう努力して参りたいと思っております。
この任期中におきまして次の事項を進めて参りたいと思っております。
一、同窓会員の相互信頼をもとに会

員同士が話し合える機会を増やすこと。

現在の五年に一度の総会を、記念総会と位置づけての定期開催、昨年初めて開催致しました納涼祭の継続開催など。

二、現在使用しております同窓会会則の見直しを進めること。

現状下、組織がだんだんと大きくなるにつれ発生する諸問題に対応していく必要があるため。

三、同窓会、旗幟会、一如会との連携を密にいくこと。

それぞれの会の成立過程は違っても、学校を支える目的は同じであり、今後さらに学校の発展に寄与出来るよう、お互いに協力し合っていきたい。

今後、駒澤大学高等学校が益々の発展をして行く為には、その一翼を担う力を更に強く同窓会が持つ必要があります。それには同窓会員の皆様の更なるご協力無くして達成することは出来ません。今後共、何かとご教示頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

同窓会副会長の目標

副会長 鈴木 俊孝 (二十五期)



平成二十五年度より駒澤大学高等学校同窓会副会長に就任いたしました二十五期の鈴木です。

皆様のご協力により微力ですが同窓会および母校の発展に少しでも貢献できればと思っております。同窓生も今期には、二万七千名となりました。同窓会の主な活動は、母校の在校生のためにクラブ助成や、文化講演会などを行っています。

また、同窓生相互の親睦も大変重要だと思っております。昨今、人間関係が疎遠になってきている時代です。まさに、同窓生の方々と親睦を図ることにより同窓生の諸先輩との情報交換することは、今後の人生において何かプラスになることが有るのではないのでしょうか。

同窓生で、常任幹事・幹事になられている方で、少しでも同窓会に興味のある方は、今後の同窓会の催し事に出席をお願いしたいと考えていますので宜しくお願いします。



平成26年6月 役員会にて

『駒大高校も新体制に』

平成25年度は駒大高校も新たな船出となりました。鈴木貞雄先生の定年退職を受けて、教頭であった貫井洋先生が第十二代校長に就任されました。それに伴い、新教頭には同窓生である、33期井上誠二先生が就任されました。

第十二代校長 貫井 洋



ながらも、現代のニーズに合った新たな道を模索しているところ。大学の付属高校としての利点を生かした、学習と両立できるさまざまな部活動や学校行事等の活性化、他大学にも進学実績が伸ばせる進路指導など、私学としての魅力づくりを着実にやっていく所存です。どうか、これまでと同様に、母校を温かく見つめていただければ幸いです。

同窓生の皆様、お元気で過ごしでしょうか。昨年4月より、鈴木貞雄先生の後任として学校長に就任しました。この同窓会も会員数2万人を優に超える大きな組織となっております。その皆様のご支援により、日頃より学校に多大なるご援助をいただいておりますことを、感謝申し上げます。



平成25年度卒業式にて

まず、はじめに、昨年の夏、駒澤大学高等学校を愛した一人の高校教師が隣でこの世を去った。馬場元司、享年五十。先輩は、昭和五十五年本校を卒業し、非常勤講師として十年以上勤められ、専任教員として陸上競技部の顧問や駒澤大学の進学係として尽力していただいた先生であった。また、同窓会においても役員として、この同窓新報の編集委員として活躍された方であった。ご冥福をお祈りいたします。

教頭 井上 誠二(三十三期)



中で転校させることとなった。また不登校気味であった生徒もいた。クラスの子供となじみず、いつも私の所に来っていた。残念ながら三年次に転校していった。今考えると、何故絶妙なアドバイスができなかったのかと反省することばかりである。しかし、確かに教員として未熟であったには違いないが、「精一杯」指導していたことも間違いない。私は、先の三名だけでなく、上手に指導できなかった生徒から多くのことを教わった。とりわけ「卒業」させることができなかった。この「同窓新報」を受け取るの未熟さを痛感させられた。

さて、同窓会から「教頭就任に当たって」という題材をいただいて、何を書こうかと考えたところ、毎日の忙しさで過去を振り返ることがなかつたので少し振り返ってみようと思いついた。二十年以上教師生活を送っていると、多くの生徒に出会い多くのことを教えられる。記憶に残っている生徒としてまず思い浮かぶのは、身長百九十センチを超える男子で、一年次、小田急線で近隣の高校の上級生二人と喧嘩をした生徒である。二年次から私が担任になったが卒業させることができず退学した。またもう一人は、小柄な生徒であったが、鼻柱が強く、納得いかなかったことに対しては相手が誰であろうと従うことをしない生徒もいた。この生徒に対しては、少年鑑別所でも指導し、家庭裁判所にまで行って裁判官と対峙した。この生徒も三年途

教務部長 鈴木 純行



平成二十四年四月より教務部長として校務に当たり、合わせて同窓会顧問として微力ながらお手伝いをさせていただくことになりました。私と駒大高校との縁は、昭和六十年に教育実習をさせていただいた時からです。当時の教務部長は神谷道倫先生、指導教諭は大山定隆先生でした。永平寺安居修行ののち、大山定隆先生のご退職後、非常勤講師として務め、広野義成先生のご退職後、専任教諭として奉職いたしました。近年、同窓生の皆様と縁のある先生方が大勢退職され、この五年間で二十五名の新任教員が採用されました。本校の顔として活躍された先生方が退職されて大変さびしくなりましたが、是非とも新生駒大高校を見守り下さい。一丸となって魅力ある学校を継承して行きたいと思っております。同窓生の皆様、遠慮なく学校に遊びに来て下さい。再会をお待ちいたしております。

総務部長 土田 絵美



平成二十五年四月より総務部長を務めさせて頂くことになりました。私は、共学になった年に専任として駒大高校に来ました。教科は保健体育、部活動は女子チアリーディング部を立ち上げ、当時は野球応援がメインで活動していました。共学になってから十九年が立ちますが、これからも駒大高校の発展のために頑張っていきたいと思っております。

『平成25年度 役員総会 開催報告』

平成25年5月18日に、役員総会が行われた。役員総会は、役員を始め、各期を代表する「常任幹事」、各クラスの代表となる「クラス幹事」を中心に構成されている。今年度は約30名が出席。26,000人以上の会員数を誇る駒大高校同窓会としては、非常に少ない人数であり、一人でも多くの参加をいただきたく思っています。特に、常任幹事・クラス幹事の皆様は、是非とも積極的なご参加を、よろしくお願い申し上げます。

平成24年度
駒澤大学高等学校同窓会収支計算書
(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

No.1

収入の部		(単位:円)		備考
項目	予算額	決算額	差	異
入会金収入	7,425,000	7,395,000	30,000	卒業生@15,000×493名 卒業生@2,000×493名 386,000
年会費収入	1,590,000	1,708,000	△118,000	郵便振込分 722,000
寄付金収入	25,000	186,000	△161,000	郵便振込分
雑収入	10,000	2,733	7,267	受取利息 2,733
前年度繰越金	22,989,349	22,989,349	0	
収入合計	32,039,349	32,281,082	△241,733	
支出の部				
事務費支出	300,000	231,772	68,228	振込手数料 HP更新料 卒業生しおり印刷代等
住所管理委託費支出	300,000	210,000	90,000	名簿管理システム保守契約料
通信費支出	150,000	69,808	80,192	NTT電話料金 役員会等郵便送付料等
会議費支出	600,000	390,310	209,690	役員総会 常任幹事会等
慶弔費支出	600,000	469,267	130,733	香典・永年勤続者記念品代 退職者慰労金等
同窓新報発行費支出	2,500,000	2,454,782	45,218	編集会議 同窓新報48号発行費等
クラス会助成費支出	300,000	180,000	120,000	クラス会6件 OB会12件
クラブ助成費支出	1,000,000	220,000	780,000	陸上部
文化活動費支出	1,000,000	1,020,970	△20,970	講演料 お車代 会場致意手土産謝礼等
学校後援事業費支出	500,000	500,000	0	学校教育活動後援事業費への繰入
イベント事業費支出	800,000	0	800,000	
65周年記念事業 樹立金支出	100,000	100,000	0	記念事業樹立基金口座への繰入
東日本大震災義援金支出	500,000	200,000	300,000	被災者卒業生への支援金
予備費支出	1,000,000	690,820	309,180	吹奏楽部全国大会出場祝賀金 100,000 一期会25年会費30,000 寄附フィルムデジタル化作業費280,820 吹奏楽部全国大会賞状賞状祝賀金300,000
次年度繰越金	22,389,349	25,543,353	△3,154,004	※
支出合計	32,039,349	32,281,082	△241,733	

(※:内訳)
三井住友銀行 桜新町支店(普通) 13,924,652 世田谷用賀郵便局(振替) 6,444,695
三井住友銀行 桜新町支店(定期) 5,000,000
三井住友銀行 桜新町支店<会費>(普通) 174,006
※ 合計 25,543,353

平成24年度駒澤大学高等学校同窓会収支計算書(No.1)及び、特別基金会計収支計算書(No.2)について監査を行った結果、妥当かつ正当であると認められる。
平成25年4月13日
同窓会会計監査 高木正博
同窓会会計監査 吉野知行

平成24年度 事業報告 2013.05.18

◎ 事務
・ ホームページの随時更新 ・ 卒業生用「栞」作成 ・ 同窓会住所管理 (PCI アイオスに委託)

◎ 会議
・ 役員会 (6回): 4月19日(木)、6月23日(土)、7月14日(土)、10月20日(土)
平成25年1月19日(土)、3月9日(土)
・ 常任幹事会 (2回): 5月10日(木)、10月27日(土)
・ 役員総会 (1回): 5月12日(土) 於 駒澤大学高等学校 会議室 (21名出席)
・ 編集委員会 (2回): 5/28、11月

◎ 慶弔
・ 永年勤続者への記念品贈呈【4名】(役員総会にて)
40年: 丸山 精一 (体育)
30年: 松川 誠二 (英語)、城 英彦 (事務)、山崎 武夫 (数学)
20・10年: 該当者なし
・ 退職者への慰労金【13名】
専任: 鈴木 貞雄 (校長/理科・定年・42年)、若月 道隆 (地歴・定年・43年)
朝内 賢光 (宗教/武道・定年・43年)、二瓶 要功 (国語・定年・42年)
久保田 実 (国語・定年・40年)、新羅 朱美 (家庭・定年・20年)
丸山 精一 (体育・退職・41年)、澤邊 敏子 (養護・退職・24年)
常勤講師: 佐藤 美由紀 (国語・半年)
非常勤: 勝田 佳裕 (公民・6年)、三澤 望 (体育・4年)、古館 美穂 (英語・1年)
秋吉 秀人 (英語・1年)
・ 香典・弔花: 5件 (33期 小沢秀樹氏、1期百瀬博氏、51期高梨英龍氏、元特別会員 菊地祐吾先生、60期丹生健人氏)
・ 祝金: 1件 (一期会30周年記念祝金 祝金)

◎ 同窓新報 48号(7月発行)

◎ クラス会助成 (61期D組、31期C組、18期I組、54期I組、50期I組、35期C組)(6件)

◎ OB・OG会助成 (バレー部男子(2回)、柔道部(2回)、獅子吼会)、硬式テニス(2回)(12件)
ハンドボール、野球部(3回)、仏教専修科、吹奏楽部)

◎ クラブ助成 陸上競技部【ハードル2.5台】

◎ 文化講演会 小栗慎介講演会(48期卒業生、テノール歌手)(12月20日)

◎ その他
・ 百瀬博氏よりご寄贈いただいた、16mmフィルム、デジタル化
・ 吹奏楽部「全国大会出場祝金」贈呈
・ 吹奏楽部「全国大会金賞祝金」贈呈
・ 東日本大震災支援金 寄付

平成25年度 役員 2013/5/10

会 長 関根 正晴 (10期)	副会長 中原 英俊 (17期)	鈴木 俊孝 (29期)
庶務 (19名) 白鳥 正志 (23期) 大橋 伸吉 (24期) 米山 正行 (26期) 河口 正之 (26期)	見玉 守弘 (26期) 馬場 元司 (31期/国語) 宮川 秀樹 (32期) 大里 和之 (37期)	戸田 光信 (43期/体育) 市原 英典 (45期/地歴) 横山 勇 (45期/体育) 田中 大輔 (46期/国語)
新井 晃 (46期/体育) 加藤 寛隆 (47期/宗教) 亀田 雄人 (50期/政経) 田中 敬子 (53期)	園生 祥雄 (54期/数学) 大石 智子 (事務)	柴田 真裕美 (事務)
会計監査 高木 正博 (15期)	吉野 知行 (28期/国語)	
名誉会長 鎌倉 由明 (16期)	相談役 松山 彰三 (1期)	大谷 康彦 (3期) 田上 大秀 (4期) 眞田 治孝 (5期)
名誉役員 原 正男 (1期)	濱田 好晃 (8期)	宮田 利徳 (15期)
特別顧問 真井 洋 (校長)	顧問 井上 誠二 (教員・33期)	池嶋 良一 (事務長) 土田 絵美 (総務部長) 鈴木 純行 (教務部長)
(5名) 渡我部 由紀 (校友会主任)		
常任幹事 市川 道太郎 (1期) 菅原 信昭 (2期) 前川 豊 (3期) 坂井 茂 (4期)	(50名) 清水 俊一 (7期) 吉沢 道雄 (10期) 浦 敏之 (13期) 渡辺 幸一 (16期)	石渡 進 (17期) 前田 光俊 (18期) 岡弘 清孝 (18期) 丹野 滋夫 (20期)
辻 克治 (21期) 山根 真一 (23期) 栗山 和美 (24期) 小林 正行 (27期)	宮沢 新一 (29期) 野口 直正 (30期) 北見 英之 (32期) 松本 盛一 (33期)	田中 秀一 (34期) 増宮 潤 (35期) 石原 透 (36期) 村松 博文 (36期)
川端 健介 (38期) 岡本 勝男 (38期) 羽橋 智仁 (40期) 山口 拓 (41期)	成田 義孝 (42期) 安中 聡 (43期) 行廣 剛 (44期) 佐藤 徹 (45期)	塩津 順平 (46期) 井上 智晴 (47期) 大澤 美由紀 (48期) 菅谷 正和 (49期)
上原 圭夫 (50期) 石井 瑞希 (51期) 木村 紀子 (52期) 村 真理子 (53期)	武島 安佳 (54期) 齋藤 典明 (55期) 太田 有都 (56期) 二杉 洋香 (57期)	森下 優香 (58期) 遠山 岬 (59期) 佐藤 朱里 (60期) 丹羽 法明 (61期)
高橋 芳里衣 (62期)	桂山 慎太郎 (63期-A)	
幹事 (418名)	(63期) 東川 薫平(B) 古賀 夏子(C) 高原 愛沙(D) 門間 翼(E) 重永 和志(F) 末廣 風真(G)	菅原 大雅(H) 森 研人(I) 蓮内 牙樹(J) 横川 莉果子(K) 田中 初紀(L)
庶務配役【執行部】	【総務部】	【広報部】
部長 関根 正晴 鈴木 俊孝 加藤 寛隆 中原 英俊 市原 英典	中原 英俊 大橋 伸吉 見玉 守弘 横山 勇	鈴木 俊孝 大里 和之 馬場 元司 米山 正行 田中 敬子
加藤 寛隆 田中 大輔 宮川 秀樹 河口 正之 田中 大輔	市原 英典 園生 祥雄 横山 勇 戸田 光信 大石 智子	新井 晃 柴田 真裕美 亀田 雄人

駒澤大学高等学校同窓会収支計算書

会計担当作成
平成25年5月9日役員会(初回審議)
平成25年4月26日役員会(2回審議)
平成25年5月11日常任幹事会(1回審議)

収入の部		24年度予算	24年度決算(案)	25年度予算(案)	備考
1	入会金	7,425,000	7,395,000	7,815,000	新会員 15,000×521名分
2	年会費	1,590,000	1,708,000	1,842,000	1,042,000 (新会員 2,000×521名分) 800,000 (振込分 2,000×400名分)
3	寄付金	25,000	186,000	25,000	
4	雑収入	10,000	2,733	10,000	
小計		9,050,000	9,291,733	9,692,000	
前年度繰越金		22,989,349	22,989,349	25,543,353	
合計		32,039,349	32,281,082	35,235,353	
支出の部		24年度予算	24年度決算(案)	25年度予算(案)	備考
1	事務費	300,000	231,772	300,000	ホームページ更新、振込手数料等
2	住所管理委託費	300,000	210,000	250,000	PCIアイオス事務委託
3	通信費	150,000	69,808	150,000	NTT電話料金、郵便送付料等
4	会議費	600,000	390,310	800,000	役員総会(5月18日)、常任幹事会等
5	慶弔費	600,000	469,267	500,000	香典、永年勤続者記念品代、退職者慰労金
6	同窓新報発行費	2,500,000	2,454,782	2,550,000	編集会議、同窓新報発行、発送費等
7	クラス会助成費	300,000	180,000	300,000	助成金【24年度実績】 クラス会(6件)・OB・OG会(12件)
8	クラブ助成費	1,000,000	220,000	1,000,000	助成金【24年度実績】 陸上部ハードル部
9	文化活動費	1,000,000	1,020,970	1,000,000	講演料、お車代、生徒への会場致意謝礼代等
10	学校後援事業費	500,000	500,000	500,000	学校事業後援樹立金
11	イベント事業費	800,000	0	700,000	同窓会65周年等企画費用
12	65周年記念事業費	100,000	100,000	1,000,000	同窓会65周年記念樹立金
14	東日本大震災支援金	500,000	200,000	500,000	「義援」→「支援」へ名称変更
15	雑費	1,000,000	690,820	1,255,000	内、755,000円はLED照明費として支出 「予備」→「雑費」へ名称変更
小計		9,650,000	6,737,729	10,805,000	
次年度繰越金		22,389,349	25,543,353	24,430,353	
合計		32,039,349	32,281,082	35,235,353	

恩師の肖像

出会い

鈴木貞雄



早、退職して一年になります。皆さんの素晴らしい活躍を日々拝見致しております。高校教育を支えて頂いた多くの方々に改めて厚く御礼申し上げます。信頼と評価を高め、未来ある学校になりましたのも会員のご協力とご支援の賜物と深く感謝致します。

在職中は「行学一如」の建学の理念で過ごさせて頂きました。が、体育館の壇上で碌な原稿もなく、今日の法要はどうしようかと通勤電車で揺られて考えた日々を思い出します。その時の自分の思い・生き方を素直に伝えられたとは思っています。昨年の今頃、涅槃会法要の折、人生は無常である。放逸であってはならぬと説法されたことを紹介し、無常迅速と話をすることを思い出しました。一瞬一瞬を無意識に過ごさない。精一杯生きることの大切さを話した記憶がありました。法要後、一人の生徒が校長室にきました。聞いていた生徒がいます。心を伝える職業と痛感した。今は多くの生徒・先生との出会いを思い出している。

駒大高校との縁は昭和四十六年三月下旬、正門から入ると真新しい赤レン

ガの側面に陽光が照り注がれている校舎があり、眩しさと素晴らしいさを感じながら面接を受けた記憶が蘇る。あの暖かな日差しは今も忘れていない。その感動を心に四十二年間勤務した。素晴らしい素晴らしい高校でした。感謝に堪えません。今も人との出会い（我達人）を大切に生きると決めている。皆さんの更なる精進と同窓会の益々の発展を祈り退職の挨拶と致します。



退職して1年

久保田 實



定年退職を祝う？なんてことだ。私はもっと楽しい授業をしたい。もっと新しい発見と出会いをしたい。授業は本当に楽しかった。授業という舞台に向けて、思いっきり準備をした。そして生徒をうならせる説明とからくり。それを考えるのが楽しかった。

でも、そうした世界から否応なしに別れなくてはならない。別れるなんていやだ。

退職後、しばらくはこんな思いであった。定年退職の時の挨拶を思い出した。

「これから最後の授業をします。」ここから退職の挨拶を始めた。

「今まで、分かるということについて、何度も説明してきたね。」

「分るってどういうこと？どうすると分かるって感じになるのかな？」

「授業の時を思い出して、澤口君なら覚えてるよね。どうすると分かるの？」

澤口：「うーん、分ると分かるの？のかな」

「そうそう、分けると分かるんだね」

「理解の解は、分解すると牛を刀で角と胴体に分けている形をしているね。」

理解の理は、植物が育つ大地を、縦横の筋目を王とつけて分ける形をしているね。

理解という文字は、動物や植物や大地を分けて、把握することだったよね。」

国語の授業はここまで。古典の授業に移ります。

「分ける」は古語でなんというでしょう。土屋君、どうかね？」

「良く分かったね。わく、だね。漢字で「分く」というのは、一本の棒を刀で二分にした形だね。ところが日本語の「わく」は、二分分ではない。

実は「大地から水がわく」の「わく」も、混然一体としていたものが、大地と湧かぬことを言うのです。混然一体としていたらどろどろです。湧かぬから、純粋な水として生まれ変わるのです。

そう、私は今、退職によって、混然一体どろどろの世界から、純粋な水となって別れていきます。わくわくしながら別れましょう。さようなら」

そして一年。やっと大好きな授業がなくても、古典に夢中になれるようになってきた。その一つは、お話し（能楽）である。お話しの世界は、今まで以上に古典演劇の世界である。業平や西行や源氏や平家を、譜入りの版本を見て唸るのである。そのための扇や紋付、袴もそろえた。どつぶり身体ごと古典の世界に入り浸りである。身体だけではない。もっと古典にどつぶりを求めて、日々わくわくである。

頑張っています

若月道隆



退職して早くも一年が過ぎようとしています。時間を持てあましたり、時間を楽しんだりの日々ではありませんが、駒大高校の活躍は何時も気にしています。またソフトテニス部の合宿にちょっと顔を出したり、大会を見に行ったりはしますが、現職のときは朝から選手の間を期待して精神的にヒリヒリしていた合宿、いつかは負けるのではないかとイライラしていた大会、そこから解放された実感は強く感じております。それでも、全国私立高等学校ソフトテニス連盟会長駒澤大学同窓会東京支部長はお受けしました。同窓会としては七月の盆踊り大会に力を入れています。学生が地域に迷惑をかけています。タバコの投げ捨て、自転車の放置など、そんなこともありマナーの

向上と、地域の皆様との融和・協力のもと、駒澤大学が地域社会の一員として発展していけば、そんな思いで、周辺の町会・婦人会・法人会などの方々や八千人を超える来場者を毎年迎えて、大学からも総長のご挨拶を頂き、大成功に終わりました。今年も頑張ろうと思っております。そんなことで大学へ行く機会が多々あります。すると校内で駒大高校の生徒に「先生何してるの」なんて声をかけられて、とても嬉しくなります。駒大高校は五十年百年先を見据えて発展していく為の施策をよくよく熟慮し、ナンパーワンよりオンリーワンを目指して、明るい話題をたくさん発信して下さい。陰ながら応援しています。



昨今

二瓶要功



四十二年間の奉職を終え、前期高齢者に数えられるに至った。人生の三分の二以上が駒澤大学高等学校での生活であったことを思うと、誠にありがたい教職人生であったとつくづく思うのである。平成二十五年三月定年退職というどうしようもない定めで職を辞し自由の身と

宮城県岩沼市 樹望祭

同窓会役員会では、東日本大震災から二年が経ち、同窓会で何か出来ることが無いかと日々役員間で議論してまいりました。

当初は、義援金の寄付や被災された同窓生の指導されている高校のクラブ助成などをしてまいりました。そんな折、高校、校友会から今回の宮城県岩沼市被災地視察・樹望祭の参加について援助の相談を受けました。

元々、駒大高校では宮城県岩沼市

の物産販売、義援金の送付、復興祭りの参加などの関係があると聞き、今回の行事に参加させて頂くことになりました。

岩沼市は、二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災において沿岸部が大津波によって壊滅的な被害を受けました。

そこで、岩沼市は「千年希望の丘」という復興のシンボルとして東日本大震災の記憶を残していくことになりました。これは、細川元首相が理事を務める「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」の一環で開催されました。

今後、約十キロメートルに及ぶ沿岸部に小高い丘を作り三万本の苗木

を植樹することで津波の力を弱め、いざという時には避難場所とし、土台部分は災害廃棄物を用いることで、この悲劇を風化されずメモリアル公園と防災教育の場としていきます。

平成二十五年六月九日、この日は、全国から約四千名以上の参加者が訪れ、「くまモン」も来ていました。十七種三万本の苗木を丘に植樹してきました。全員の協力によりきれいに植樹できました。

今後、我々同窓会も母校と岩沼市との関係を維持して頂き何かできるか考えていきたいと思えます。

報告・鈴木俊孝(二十五期)



高校の先生、校友会の代表生徒と共に参加同窓会から、交通費などを援助させていただきました。

千年先の子どもたちに伝えたい 千年希望の丘 MILLENNIUM HOPE HILLS



仙台空港上空から千年希望の丘(相野差地区)を望む



岩沼市長
井口 経明

愛と希望 復興の象徴「千年希望の丘」

「千年希望の丘」は、東日本大震災の記憶を未来へ引き継ぎ、数々の教訓を活かしつ、永遠に続く岩沼市の愛と希望の象徴として、国内外の多くの皆様のお力をいただきながら整備を進めています。

小高い丘を配し、津波の力を弱め、いざという時に命を守る避難場所として、また、土台部分には再生可能な災害廃棄物を用いることで、悲劇を決して風化させず、鎮魂とともに未来永劫に持続可能な岩沼の象徴とするもので、これまで、法令や制度、財源等の問題を含め、様々な困難や課題がありましたが、思いが少しずつ形となってきました。

整備にあたり、国内外から数多くの寄附や支援をいただき、また、被災地を思う子どもたちが一生懸命に育てた苗木を提供いただくなど、復興を願う皆様の温かい気持ちに触れ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今に生きる私たちの知恵と力で整備した「千年希望の丘」が、復興のシンボル、そして、千年先まで子どもたちが笑顔ですべての人々とともに幸せに暮らすことができるように、人類の知恵の遺産となることを期待しています。皆様の思いを未来につなぐため、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



文化講演会開催報告

2012年12月20日(木)に、駒澤大学高校新体育館にて同窓会主催の「文化講演会」が行われました。この年は、本校卒業生でテノール歌手の小栗慎介氏(48期)を迎え、コンサート形式で行いました。小栗氏のプロのテノール歌手としての圧倒的な歌唱力と、軽妙な掛け合いや、駒澤大学高校での思い出話などが随所に散りばめられ、大好評のうちを終りました。

2013年12月20日(金)には、津軽三味線デュオ「輝&輝」のお二人が来校され、新体育館にてコンサート形式で行いました。「輝&輝」のうちのお一人が駒澤大学出身ということが縁で、本校で演奏して頂きました。それぞれが全国大会で日本一になったという実力で、三味線を弾きこなしていました。

津軽三味線コンサート

2013年12月20日(金) 9:30 開演
会場: 駒澤大学高等学校 体育館

2008年に武田佳泉、白藤ひかりのふたりによって結成された本格派津軽三味線デュオ。

出身地が異なり、それぞれが全国大会で日本一になった経験を持つ。現在、関東地方を中心に全国的に活動を行っている。演奏曲目は古典である民謡から、POP調・ロック調を取り入れたオリジナル曲やカバー曲まで幅広い。

武田佳泉
1989(平成1)年、愛知県稲沢市生まれ。国立音楽大学卒業。14歳の時に中学校の部活動で見た津軽三味線演奏の衝撃で、津軽三味線に没頭。津軽三味線を研究発表会に参加、津軽三味線を研究発表会に参加、津軽三味線を研究発表会に参加。

白藤ひかり
1990(平成2)年、福岡県北九州市生まれ。自家作曲の曲で、駒澤大学卒業。高校より津軽三味線に没頭。津軽三味線を研究発表会に参加。

2007年2008年津軽三味線全国大会 2位入賞
2010年全国津軽三味線大会 1位入賞

津軽三味線「輝&輝」コンサート
2013年12月20日(金) 午前9時30分 開演
会場: 駒澤大学高等学校 体育館

音響エンジニア 藤岡浩
企画/主催 駒澤大学高等学校同窓会

輝&輝HP: <http://kiki-teruteru.jimdo.com/> 検索 輝&輝

感動を呼ぶテノールの歌声

小栗慎介

文化講演会 and スペシャルコンサート

プロフィール
1998年駒澤大学を卒業。推薦で駒大に進学する道があったものの、兼ねてから興味があった音楽の道に進む事を決意。一年の浪人生活をを経て、1999年 難関で知られる東京芸術大学声楽科に合格。2006年世界的バイオリニスト東加瀬太郎氏が所属する事務所に入社を受け、3人組のボーカルグループとして契約。2008年ソロ歌手として独立後は、全国各地でコンサートや講演会、イベント・テレビ・ラジオ出演等、様々な場面で活躍を続けている。2005年 愛・地球博にて歌唱(愛知万博)。2007年 JAL 音舞台では、京都金閣寺本堂で歌唱(全国テレビ放送)。2011年 東北復興支援イベント「世田谷の集い」では、俳優 中村雅俊氏と共演ゲスト出演。僅しさと力強さを併せ持った「天啓の歌声」は、聴く人の心に「感動」の光を灯し続けている。

~駒高を卒業した先輩が後輩達に贈る、音楽のプレゼント~
12月20日(木) 午前9時30分開演 小栗慎介 検索

場所: 駒澤大学高等学校 体育館
出演: 小栗慎介、ゆりまる、チェリスト 小林幸太郎、ベーシスト コーナム・スジャン、音響エンジニア 藤岡浩、企画/主催 駒澤大学高等学校同窓会、制作/プロデュース 小栗オフィス

TEL 03-3700-6131
TEL 080-7044-7716



2013年度 部活動の活躍

インターハイ出場

●ソフトテニス部●



東京予選を突破し、「未来をつなぐ北部九州インターハイ」に出場しました。3回戦敗退に終わりましたが、3年生は「攻めるテニス」で駒大の伝統を積み重ねてくれました。若月先生の退職にともない新顧問（市原教諭：本校卒業生）のもと、新たな駒大ソフトテニス部をきづいていきます。ソフトテニスに打ち込める環境のなか「礼儀正しく、元氣よく！」駒大高校らしく全国大会優勝を目指し活動していきますので同窓生のご声援よろしくお願いたします。

ソフトテニス顧問：市原英典（45期生）

●陸上競技部●

2011年震災後の東北で行われたインターハイ以来、陸上競技部にとって2年ぶりの出場を3年E組鈴木 利佳が果たしました。種目は女子走幅跳。連日の猛暑の中、部員全員の気持ちとともに、全力で試合に臨みました。結果は決勝には進めず、悔し涙を流しましたが今後の人生の糧になる経験をしてくれたと思います。陸上競技を通じて「何事にも感謝を表現できる選手」「心・技・体 すべてにおける鍛錬」をテーマに、連続でのインターハイ出場を目指します。これからもご声援よろしくお願いたします。

陸上競技部顧問：玉森太朗



サッカー部東京都準優勝



2013年第92回全国高校サッカー選手権の都大会決勝戦では、皆様の応援で、西が丘サッカー場を駒大高校のホームゲームのような状態にさせていただきました。沢山の応援、本当にありがとうございました。駒高サッカー部では、「応援されるようなチーム（部員）になろう」というフレーズが飛び交います。これからも皆様に応援して頂けるようなチームを目指して頑張りたいと思います。そして、その期待に応えられるように精進していきたいと思っておりますので、これからも宜しくお願致します。

サッカー部顧問：亀田雄人（50期生）



決勝戦に向けて作られたポスター



部活動へのお祝い 平成24年度から顕著な活躍をした部活動に対し、表彰を行っています。実績としては、平成24年 吹奏楽部 全日本吹奏楽コンクールの全国大会出場のお祝いと、全国大会金賞のお祝いを贈呈した。平成25年 国民体育大会において、全国大会に出場した男子ソフトテニス部と陸上競技部にお祝いを贈呈した。今後は、さらにこのお祝いをより多くの部活動に渡していきたいと考えています。

クラス会



60期A組 担任：加藤寛隆先生
2013年12月19日 参加11名
えこひいき渋谷店にて
報告者：高橋洋太

17期J組

担任：中村強先生
2013年11月23日 参加25名
東京グランドホテルにて
報告者：成子英雄

30期G組

担任：上脇正次先生
2013年9月28日 参加名
がらく恵比寿店にて
報告者：梅木久生

58期M組

担任：稲村(石塚)恭子先生
2013年5月12日 参加11名
しづや畑
報告者：菊地原勇人



60期K組

担任：稲村(石塚)恭子先生
2014年2月15日 参加12名
nino * ninoにて
報告者：陰山慶太



60期B組

担任：亀田雄人先生
2014年1月4日 参加10名
えこ鳳凰二子玉川店にて
報告者：宝田啓太

43期A組

担任：須賀喜一郎先生
2013年8月31日 参加14名
北海道渋谷駅前店
報告者：西村公吉



37期B組

担任：広谷五郎先生
2013年7月19日 参加12名
渋谷パンダレストラン
報告者：須賀克敏

OB・OG会



男子硬式テニス部

顧問：中島勝彦先生
2013年12月21日
参加10名

CAFE & BAR K-flst
報告者：小林勇介



49期F組

担任：丸山精一先生
2013年5月25日 参加21名

ビストロクーダイニング
報告者：櫻井紫野

体操競技部

顧問：丸山精一先生
2013年3月16日
参加23名
浜松町東京会館 離宮飯店
報告者：鈴木輝伯

16期B組

担任：京滝隆司先生
2013年6月23日
参加12名
木曽路用賀店
報告者：新川雅幸



ワンダーフォーゲル部

顧問：山海俊範先生
2014年2月15日 参加10名
銀座 萬福
報告者：宮川秀樹

ワンダーフォーゲル部

(31、32、33期生)
顧問：二瓶要功先生
2013年3月2日
参加10名

渋谷流響
報告者：宮川秀樹



吹奏楽部

顧問：吉野信行先生
2014年1月25日

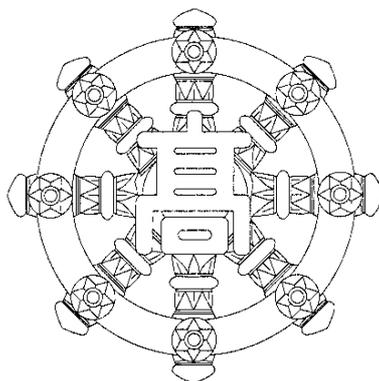
参加50名
渋谷東武ホテル
報告者：根本海渡

まずはじめに、同窓新報の発行が遅れてしまい、同窓生の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。
同窓新報編集委員も一新され、広報部を設立し、新しい同窓新報を作っていくと日々努力しておりますが、中々うまくいかない現実があります。今号は、同窓生にゆかりの深い先生方のご退職を取り上げさせていただきました。懐かしい先生の姿、言葉に高校時代を思い出される方も多いと思います。この同窓新報をよむ機会にいただき、同窓生同士の親睦を深め、駒大高校を盛り上げていただくと幸いです。



クラス会、OB・OG会について
同窓会では同窓生の親睦・交流を目的に、クラス会、OB会・OG会の開催に助成を行っております。同窓生のみ(同期会)も「助成費」を申請できます。
また、クラス会(同窓会)などを開くための手助け(担任や同級生の連絡先など)も出来ますので、お気軽にご相談下さい。
申請の詳しい方法は、同窓会のホームページの「クラス会を開きたい」をご覧ください。
また、ホームページには、開催の詳しい報告文も掲載しておりますので、合わせてご覧頂けますと幸いです。

駒澤大學高等學校同窓会



● 「封筒」 の下のマークについて ●



「カーボン・オフセット」とは…？

経済活動や日常生活などによって排出しているカーボン (CO₂) を、まず、できるだけ排出量が減るよう自主的に努力をした上で、それでも削減するのが難しい排出量について、他の場所で削減・吸収されたCO₂の排出権を購入することでオフセット (埋め合わせ) を行うことを言います。